

〔大阪城南女子短期大学研究紀要 第59巻 35～49頁 令和7年3月〕

# 「学生と実習先の効果的マッチングシート」の作成と検討 — インターンシップでの試み —

玉川 朝子・片山 綾・大嶋 健吾

〔論文〕

# 「学生と実習先の効果的マッチングシート」の作成と検討 —インターンシップでの試み—

玉川 朝子・片山 綾・大嶋 健吾

【序論】

近年、子どもを取り巻く社会環境は急激に変化しており、保育者の役割はますます重要視されている。このような背景から、保育者を養成する大学（以下、「養成校」）においても、質の高い保育者を育成することが強く求められている。

## X短期大学におけるインターンシップ実習の取り組み

そのような状況において、保育士養成課程等検討会（2010）は、「保育実習の長期化やインターンシップなども視野にいたした検討が望まれる。学生の保育現場への継続的にかかわりによる実践知の獲得は、就職へのモチベーションを高めることにもつながると考えられる」と指摘した。これを受け、本研究の対象である X 短期大学では 8 年前より、保育士や幼稚園教諭の資格取得に必要な実習に加えて、長期インターンシップ実習（以下、「インターンシップ」）を独自に導入している。このインターンシップでは、学生は 1 年間同じ保育所・幼稚園・認定こども園・施設において、週 1 回の頻度で実習を行う。これによって、子どもとの関わり方や保育現場での実践的な保育技術の習得を目指すと同時に、「一保育者」として責任を担いながら、社会人基礎力を培うことを目的としている。すなわち、学生はインターンシップを通して保育者としての現場経験を積み、保育者として成長し、実践的な場で状況を的確に認識し適切な判断を下す能力（実践知）を得る。また、インターンシップでの失敗によって、学生自身が保育者として必要な素養や課題を認識し、自主的に課題に取り組む姿勢を養うことにも繋がる。

大嶋・芝田・玉川・中津（2023）では、このインターンシップの教育的効果について検討が行われた。その結果、学生自身の意欲向上や成長実感のためには、学生が余裕を持った年間スケジュールを立てられるような見直しの機会や、学生自身が見通しをもって学びを得られる機会が必要であることが示された。一方、インターンシップを経験することが保育職に就くことへの意欲に繋がっていない可能性が示唆されている。また、インターンシップを履修するかどうかと子どもとの関わり方については考察されているが、保育者（指導担当者）との関わり方についてはほとんど検討されていない。

## 学生の進路決定に影響する要因

令和元年度の「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究」（全国保育士養成協議会，2020）によると、養成校の学生が保育職への就職を目指すことに決めた理由は「保育者になることが夢だった」が最も多く、全体の8割弱を占めている。一方、養成校の学生が保育職ではなく一般職に就職する理由は「実習で保育をすることに自信を持てなかった」という回答が約4割を占めている。このことから、保育者になるという夢を抱いて養成校に入学した学生にとって、実習中の経験が、最終的な「保育職への就職」という意思決定において重要な影響を与えることが示唆される。

これについて、白石（2017）では、養成校での実習が学生の就職に影響を与える要因として、「実習を通じて培われる実習生自身の技術や自信」および「実習先で出会う保育者との関わり」が重要であることが指摘されている。具体的には、指導を受ける側の学生がどのように学び、技術を身につけるか、またそれを自身に結びつけるプロセスや、指導を行う保育者との関係性が、その後の進路選択において重要な要因として作用する可能性があると考えられる。

## 現場における学生育成に関する課題

第一著者は、約10年間、保育現場で保育者として勤務し、実習指導や学生の育成、さらに若手保育者の育成に携わってきた。その経験の中で、学生と現場の保育者の間に意識や意見の相違が生じる場面を幾度も目にしてきた。

現場の保育者にとって、多忙な保育業務の中で学生（実習生）の指導を行うことは、身体的・精神的な負担を伴う。これは、学生がクラスに加わる期間には、通常の保育業務に加え、見えない部分での配慮を求められることが大きな理由であると考えられる。これは学生の日誌添削だけではなく、例えば子どもが安全に過ごすために学生の行動を細やかに見守ることや、学生に保育活動の補助を依頼する際の手順説明、その行動の目的や意図の共有なども必要であることが挙げられる。また、学生の状況や状態に応じて、無理をしていないか様子を見ながら声をかける等の配慮も求められる。こういった状況において、余裕をもって学生を指導することは難しい場面が多い。

一方、学生にとっても、普段とは異なる環境で保育者の役割や視点、立場を理解することは容易でなく、ストレスや負担感、不安感等を感じることは多い。例えば、学生が「一保育者」として現場に馴染めるように配慮し保育者が行った指導は、学生にとっては過度な負担やストレスとなっているかもしれない。このような場合、学生は保育者の指導を受け入れにくい状況に陥ることもある。逆に、学生の何気ない発言も、保育者にとってはその学生の保育者としての資質を疑う要因となる場合もある。

このような保育者と学生の間認識のズレは、学生の学びや成長を阻害し、現場における教育効果を減少させる恐れがある。したがって、学ぶ意欲をもつ学生と、質の高い保育者を育成したいと考える保育者の双方の思いが円滑に共有されることは、学生が保育者として成長するために重要であると考えられる。

## 本研究の目的

本研究では、X 短期大学のインターンシップにおいて、学生と保育者との円滑なコミュニケーションを促進させ、それによって学生の保育に対する意欲を向上させることを目的とした。そのために「学生と実習先の効果的マッチングシート（以下、「マッチングシート」）」を作成し、その効果を検証した。

## 【方法】

### 対象者

X 短期大学において、2024 年度にインターンシップ授業を履修している学生 54 名（1 年生 39 名、2 年生 15 名）を対象とし、全員に対して後述する学生用マッチングシートとアンケート調査を実施した。また、54 名がインターンシップ実習を行う保育所・幼稚園・認定こども園・施設の指導担当者 54 名全員に対して、後述する指導担当者用マッチングシートを実施した。アンケート調査に関しては、事後指導授業に出席した 53 名（1 年生 38 名、2 年生 15 名）を対象とした。

### 手続き

**調査の流れ** インターンシップを履修することを決めた学生は、まずインターンシップ先の種別を選択した。それを基に、インターンシップ担当教員（第一著者、第二著者）が各施設に依頼をし、全学生のインターンシップ先を決定した。その後、学生にはインターンシップ事前指導授業を行い、その際に学生用マッチングシートを実施した。事前指導の翌週に各園でオリエンテーションが実施され、そこで学生から各施設の担当者に指導担当者用マッチングシートについて説明され、手渡された（なお、これ以前のタイミングで、インターンシップ担当教員から各施設に電話で事前説明も行っていった）。その翌週よりインターンシップが開始され、週に 1 回、水曜日に 6 時間のインターンシップ実習が、半年間で計 10 回（2 年生は教育実習期間を除く計 8 回）行われた。インターンシップ 5～7 週目にインターンシップ担当教員を含む学科教員が各園へ巡回訪問し、その際に指導担当者用マッチングシートが回収された（その時点で未記入だった場合

は封筒を手渡し、郵送を依頼した)。回収された指導担当者用マッチングシートはインターン担当教員から各学生に手渡された。10回(8回)のインターンシップが終了した翌週に事後指導授業が行われ、その中でアンケート調査が行われた。

**マッチングシートの作成** 様々な企業で利用されているマッチングシート(ジョブジョイントおおさか, 2017)を参考にしながら、内容を保育分野に合うよう置き換える形で、インターンシップ担当教員が作成した。企業におけるマッチングシートは、主にキャリア意思決定において動機づけを促進する効果があることが示されている(大重, 2012)。

本研究で新たに作成したマッチングシートは、学生用(図1)と指導担当者用(図2)の2種類であった。学生用では、「自身が希望する指導の傾向」「インターンシップにおいて特に経験してみたいこと・身につけたい力」「自身の得意なこと・苦手なこと」について、それぞれ2~12個の選択肢から選択する形式の質問と、最後に、それらの質問への回答をふまえた1年後の自分自身の理想像を自由記述で書く項目からなった。「希望する指導の傾向」は、このマッチングシートを見た指導担当者が、学生が望む指導方法(その都度指導してほしい/時間をとってまとめて指導してほしい、等)を知ること、学生を指導しやすくなることを目的として設定された。「特に経験してみたいこと・身につけたい力」では具体的な項目(ピアノ/読み聞かせ、等)を設けることで、指導担当者がインターンシップ中に学生自身にそれらへの挑戦を促しやすくなることを目的として設定された。「得意なこと・苦手なこと」では、社会人基礎力(留学生支援ネットワーク(2010)を参考にした)に挙げられる項目から選択させることで、指導担当者が学生の自己評価を知った上で指導を行いやすくなることを目的として設定された。

一方、指導担当者用マッチングシートでは、「学生に求める姿勢」「(基本的に)指導可能なタイミング」「学生時代に経験しておきたかったこと・身につけておきたかった力」「学生に学んでほしい指導担当者自身の特技」についての選択形式の問題と、インターンシップ生への一言を自由記述で書く項目からなった。「学生に求める姿勢」は3位まで順位をつける形で記入し、このマッチングシートを見た学生が自分に求められていること(誠実性/挨拶、等)を知ること、具体的な目標を立てやすくなることを目的として設定された。「指導可能なタイミング」は、インターンシップに限らず実習においても特に1年生からよく相談のある「担当の先生について質問すれば良いのかが分からない」という問題を解決する手掛かりとなるよう設定された。「学生時代に経験しておきたかったこと・身につけておきたかった力」「学生に学んでほしい指導担当者自身の特技」は、「学生に求める姿勢」と同様に、学生が具体的な目標を立てるための手助けとなるよう設定された。

図 1 学生と実習先の効果的マッチングシート（学生用）

2024 年度 インターンシップ事前アンケート調査（学生用）

園名 \_\_\_\_\_ 担当クラス \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

このアンケートには、みなさんがインターンシップを臨むにあたっての心構えやインターンシップを通して学ぶ姿勢を記入いただけます。自身を客観的に評価し、質問内容についてよく理解した上で記入するようにしてください。

※記入内容が希望通りになるわけではありません。

希望する指導の傾向	指導方法（それぞれどちらかにチェック） ① <input type="checkbox"/> 元気で明るい指導 ・ <input type="checkbox"/> 静かで落ち着いた指導 ② <input type="checkbox"/> 保育中にその場で指導 ・ <input type="checkbox"/> 保育後にまとめて指導 指導してほしい内容（2つまで） <input type="checkbox"/> 日常の保育業務を具体的に <input type="checkbox"/> 保育全般に対する保育者の意図 <input type="checkbox"/> 自分のできていないところ <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）
特に経験してみたいこと・身につけたい力	保育活動の実践（2つまで） <input type="checkbox"/> ピアノ <input type="checkbox"/> 読み聞かせ <input type="checkbox"/> 手遊び <input type="checkbox"/> 行事の準備 <input type="checkbox"/> 行事への参加 <input type="checkbox"/> 活動の主担当 <input type="checkbox"/> 保護者対応 <input type="checkbox"/> その他（ _____ ） 社会人としての心がまえ（2つまで） <input type="checkbox"/> 言葉づかい <input type="checkbox"/> 問題を理解し、解決方法を考える <input type="checkbox"/> 周囲の人と協力する <input type="checkbox"/> 自分の考えを言語化して相手に伝える <input type="checkbox"/> その他（ _____ ）
得意なこと	<input type="checkbox"/> 主体性 <input type="checkbox"/> 働きかけ力 <input type="checkbox"/> 実行力 <input type="checkbox"/> 課題発見力 <input type="checkbox"/> 計画力 <input type="checkbox"/> 創造力 <input type="checkbox"/> 発信力 <input type="checkbox"/> 傾聴力 <input type="checkbox"/> 柔軟性 <input type="checkbox"/> 情報把握力 <input type="checkbox"/> 規律性 <input type="checkbox"/> ストレスコントロール力
苦手なこと	<input type="checkbox"/> 主体性 <input type="checkbox"/> 働きかけ力 <input type="checkbox"/> 実行力 <input type="checkbox"/> 課題発見力 <input type="checkbox"/> 計画力 <input type="checkbox"/> 創造力 <input type="checkbox"/> 発信力 <input type="checkbox"/> 傾聴力 <input type="checkbox"/> 柔軟性 <input type="checkbox"/> 情報把握力 <input type="checkbox"/> 規律性 <input type="checkbox"/> ストレスコントロール力

■（チェックした項目をふまえて）1年後の自分

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

図2 学生と実習先の効果的マッチングシート（指導担当者用）

2024年度インターンシップ クラス担当の先生へ

園名 \_\_\_\_\_ クラス名 \_\_\_\_\_

指導担当教員 \_\_\_\_\_ 指導学生名 \_\_\_\_\_

インターンシップをご担当・ご指導頂く先生への事前アンケート

学生に求める 姿勢の優先順位 (3位まで)	<input type="checkbox"/> 誠実性 <input type="checkbox"/> 積極性 <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 協調性 <input type="checkbox"/> 挨拶 <input type="checkbox"/> 素直さ <input type="checkbox"/> 礼儀正しさ <input type="checkbox"/> 元気さ <input type="checkbox"/> 真面目さ <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
基本的に 指導可能な タイミング (複数回答可)	<input type="checkbox"/> いつでも <input type="checkbox"/> 子どもの登園前 <input type="checkbox"/> 子どもの登園後 <input type="checkbox"/> 午睡時間 <input type="checkbox"/> 保育者の休憩時間 <input type="checkbox"/> 学生側からタイミングを申し出てほしい <input type="checkbox"/> 保育者側からタイミングを申し出る <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
学生時代に 経験しておき たかったこと・ 身につけておき たかった力	<b>保育活動の実践</b> (2つまで) <input type="checkbox"/> ピアノ <input type="checkbox"/> 読み聞かせ <input type="checkbox"/> 手遊び <input type="checkbox"/> 行事の準備 <input type="checkbox"/> 行事への参加 <input type="checkbox"/> 活動の主担当 <input type="checkbox"/> 保護者対応 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ ) <b>社会人としての心がまえ</b> (2つまで) <input type="checkbox"/> 言葉づかい <input type="checkbox"/> 問題を理解し、解決方法を考える <input type="checkbox"/> 周囲の人と協力する <input type="checkbox"/> 自分の考えを言語化して相手に伝える <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
ぜひ学生に 学んでほしい (担当の先生の) 特技	<b>保育の実践</b> <input type="checkbox"/> 音楽系 (ピアノ・歌等) <input type="checkbox"/> 体育系 (体操・体育指導等) <input type="checkbox"/> 表現系 (制作・絵画等) <input type="checkbox"/> 表現系 (読み聞かせ・手遊び等) <input type="checkbox"/> その他 ( _____ ) <b>保育業務</b> <input type="checkbox"/> チーム保育の連携 <input type="checkbox"/> 保護者対応 <input type="checkbox"/> ICTの活用 <input type="checkbox"/> 保育記録 <input type="checkbox"/> その他 ( _____ )

■インターンシップ生へ「将来こんな保育者になってほしい」「ここを頑張りたい」等ありましたら、一言お願い致します。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

学生用・指導担当者用の両方を作成したあと、可能な限り現場の指導担当者の回答負担を軽減するため、現役園長兼教員である第三著者を通じて現役保育者の意見も反映させた上で、推敲を重ね、完成させた。なお、指導担当者用マッチングシートには説明文を記載した表紙も含まれていた。

**アンケート調査** Google Form を用いて調査を行った。調査項目には以下の 4 項目を含んだ：(1) インターン先の先生の指導内容・時間・回数について、総合的にどれくらい満足ですか？(1：とても不満～6：とても満足)、(2) その理由を教えてください(自由記述)、(3) アンケート用紙 1) にインターン先の先生が回答してくださったことによって、インターンシップに対する意欲はどう変わりましたか？(1：とても意欲が下がった～5：とても意欲が上がった；変わらなかった場合は 3 を選択)、(4) その理由を教えてください(自由記述)。なお、本研究以外の目的のために、インターンシップで実施している日誌が学びに繋がった程度を尋ねる項目や、社会人基礎力(留学生支援ネットワーク, 2010)に対するインターンシップ前後の自己評価点を尋ねる項目も含まれていた。

## 【結果】

### マッチングシートはインターンシップに対する意欲向上に繋がったか？

「アンケート用紙にインターン先の先生が回答してくださったことによって、インターンシップに対する意欲はどう変わりましたか？」という質問への回答について、回答者 53 名全員の平均値は 4.32 であった。この数値が「意欲は変わらない」を意味する 3 よりも高いと言えるかどうかを調べるために t 検定を行ったところ、有意に高かった ( $t [52] = 12.76, p < .00$ )。すなわち、指導担当者用マッチングシートを学生が見るによって、インターンシップに対する意欲が向上したことが示された。

その理由について、自由記述(巻末資料 1)を見ると「(学生に求める姿勢として挙げられた)“素直さ”というのがよく分からなかったけれど自分の気持ちを具体的に伝えることができるよう努力しました」「(学生に求める姿勢として“挨拶”を挙げられたので)挨拶はしっかり大きい声で恥ずかしがらずにやるようになった」など、やるべきことを具体化できたことが意欲向上に繋がっていたと考えられる記述が 53 名中 29 名(1 年 23 名、2 年 6 名)において見られた。また、1 年生 4 名において「安心できた」という記述があり、不安感の軽減にもある程度繋がっていたと考えられる。さらに、15 名(1 年生 12 名、2 年生 3 名)が「褒めて頂いたことがとても嬉しかったです」「子どもたちも大好きですと書いていて嬉しくて頑張ることが出来た」など、指導担当者用マッチングシートの最後のコメント欄にポジティブな記述があったことや、「子どもだけで

なく、インターン生の自分のことをしっかり見てくれていた」など、保育者とのポジティブな関係性を感じられたことが意欲に繋がったと答えていた。

一方、「アンケート用紙にインターン先の先生が回答してくださったことによって、インターンシップに対する意欲はどう変わりましたか？」という質問に、「意欲が上がった（5 または 4）」と答えた学生の割合は、1 年生で 92.1%、2 年生で 73.3%であった。どちらも高い数値ではあるが、2 年生よりも 1 年生の方がマッチングシートの効果があった可能性がある。実際に、「意欲は変わらなかった（3）」と答えた 2 年生 4 名のうち 3 名はその理由として、「変わらずインターンは楽しいから」「いつも通り頑張ろうとしか思わなかった」「先生方がどう思っているかは分かったが、モチベーションに繋がることはない」と回答していた。

これらの結果から、マッチングシートは特に 1 年生において、学生の意欲を向上させるのに有用だと考えられる。その際、マッチングシートの項目として特に重要なのは「学生に求める姿勢」について尋ねる項目である。また、最後のコメント欄に担当保育者からのポジティブな内容が書かれていることも、学生の意欲向上のためには重要かもしれない。

### マッチングシートと指導担当者に対する満足度の関係

「アンケート用紙にインターン先の先生が回答してくださったことによって、インターンシップに対する意欲はどう変わりましたか？」という質問に対する回答と、「インターン先の先生の指導内容・時間・回数について、総合的にどれくらい満足ですか？」という質問に対する回答との間に相関関係があるかを調べるために、Spearman 順位相関係数の無相関検定を行った。その結果、2 つの数値の間には有意な相関が見られ ( $t [51] = 4.94, p < .00$ )、マッチングシートによって意欲が向上した程度の高い学生ほど、保育者に対する満足度が高いことが示された。

### 指導担当者に対する満足度に影響する要因

「インターン先の先生の指導内容・時間・回数について、総合的にどれくらい満足ですか？」という質問についての回答の平均値は 5.00 であった。割合で見ても、6 または 5 と答えた学生が 73.5%であり、インターンシップ先の指導担当者に対する満足度は全体としてかなり高いと言える。

その理由について自由記述（巻末資料 2）を見ると、最も多いのは「一日の終わりに反省会を設けてくださっていたのでその日に聞きたいことを解決できたから」「担任の先生だけではなく、色々なクラスの先生が話しかけてくれて質問しやすい環境だから」「子どもたちが帰ったあと先生が積極的に話してくれてその流れに乗って質問をすることが出来たから」など、質問をしやすい環境があったことに関する記述であった。学生（特に 1 年生）は、現場の忙しさに圧倒されて

しまい、いくらマッチングシートで「いつでも質問してね」と伝えられていてもなかなか質問することが出来ないことは多い。その中で保育者側から質問がないかを尋ねられたり、反省会の時間を設けられたりすることは学生の満足に繋がるのだと考えられる。また、反対に満足度を2と答えた学生4名（1年生3名、2年生1名）の自由記述を見ると、全員が「指導していただいたことがほとんどない」と回答していた。このことから、少なくともインターンシップを履修している（比較的モチベーションの高い）学生に関しては、実習中に必要な指導や助言が十分に行われず、「注意しない」「怒らない」といった「特別扱い」を受けているような状況はむしろ逆効果であることが考えられる。

## 【考察】

本研究は、X短期大学のインターンシップにおいて、学生と保育者間の円滑なコミュニケーションを促進させ、それによって学生の保育に対する意欲を向上させることを目的としていた。そのために「学生と実習先の効果的マッチングシート」を作成し、その効果をアンケート調査をもとに検証した。その結果、マッチングシートは学生のインターンシップに対する意欲を向上させていたことが示され、この効果は特に1年生で顕著であることが示唆された。また、マッチングシートによって意欲が向上した程度の高い学生ほど、指導担当者に対する満足度が高いことが示された。さらに、自由記述の結果から、インターンシップにおいて質問しやすい環境が整えられているかどうか、指導担当者に対する満足度に繋がる可能性も示唆された。

## マッチングシートと学生の意欲向上

X短期大学では、1・2年生の両方が同じ時期（5月）にインターンシップ実習を開始する。すなわち、1年生は入学してすぐに事前指導を数週間受け、オリエンテーションに赴いたあと、入学の1ヶ月後には学外実習が始まることになり、不安感がかなり大きくなることが予想される。また、インターンシップが開始した直後には、現場の環境やそこでの自分の行動について、迷ったり悩みを持ったりする学生も多いだろう。そういった状況において、指導担当者からマッチングシートを通して自分がやるべきことを具体的に提示されることは、学生の不安感を減少させ、その結果、学生の意欲を向上させたのではないかと考えられる。

一方、2年生においては3割近くが「マッチングシートによって意欲は向上しなかった」と回答していた。今回調査対象とした2年生15名は、履修が選択制であるインターンシップを全員が2年連続で履修しており、この時点で教育や保育に対する意欲は高いと考えられる。また、1年生の間に経験したインターンシップ・教育実習・保育実習の中で、現場で求められる行動を予想する力もある程度培われている。これらの「元から特に意欲の高い学生が多い」「学外実習に

対する不安感が1年生より低い」という理由から、マッチングシートの効果が感じられない学生が多かったのではないと思われる。実際に、2年生の意欲向上に関する自由記述では「変わらずインターンは楽しいから」「いつも通り頑張ろうとしか思わなかった」「先生方がどう思っているかは分かったが、モチベーションに繋がることはない」という回答が見られ、自分自身の力で必要に応じた行動を取ったり、対処したりすることが可能な段階であることが推察された。そのため、マッチングシートは具体的な目標を立てることには繋がったかもしれないが、そこから意欲向上には繋がらなかったと予想される。

しかしながら、指導担当者からの最後のコメント欄にポジティブな記述があることや、保育者とのポジティブな関係性を感じられることは、1年生と2年生の両方において、インターンシップの意欲に繋がっていることが示唆されている。学生の努力を評価するコメントやポジティブなフィードバックは、不安感の高低やモチベーションの高低に関わらず、学生の自己肯定感や居場所意識、やりがいの醸成などに繋がるのかもしれない。また、不安感の高い学生においては、「自分のことを見てくれている」「自分の良いところに気づけた」など、安心感にも繋がっていることが考えられる。

## マッチングシートと指導担当者への満足度

今回の結果においては、マッチングシートによる意欲向上と指導担当者への満足度との間には有意な相関関係があることのみが示されており、意欲向上が満足度に繋がったのか、満足度が意欲向上に繋がったのかは示されていない。これについては今後の課題であるが、自由記述の結果から、少なくとも、インターンシップにおいて質問しやすい環境が整えられているかどうか、指導担当者への満足度に繋がることは示唆された。つまり、学生にとって指導担当者へ質問しやすい環境は、指導担当者との円滑なコミュニケーションのための第一歩であり、そういった環境が良好なコミュニケーションに繋がった結果として、指導担当者への満足度が上がったのかもしれない。さらに、学生と指導担当者の間での円滑なコミュニケーションによって満足度が上がった結果、学生のインターンシップに対する意欲が向上した可能性もある。今後、これらの関係性が確かであるかを検討するための研究を行い、精査する必要があるだろう。

## 本研究の限界と今後の展望

本研究では、今年度のインターンシップ履修生を対象として、新たに作成したマッチングシートの効果を検討した。上述した通り、インターンシップの履修は選択制であり、例年の傾向ではあるものの、1年生に比べると2年生の人数はかなり少ない。1年生と2年生における効果の違いを比較するためにも、今後、継続的にサンプル数を増やした上で分析を進めることが必要だろ

う。また、今回は4月から始まったインターンシップの7月末時点での学生の意見しか調査できていない。インターンシップは1年間行われることが大きな特徴・利点であり(大嶋他, 2023)、1年間を通じた意欲の変化や保育者との関係性の構築について検討することは重要である。そのために、1年間のインターンシップ終了時のアンケート調査も引き続き行い、マッチングシートの効果について、更なる分析・検討を行う必要があるだろう。

また、マッチングシートにおける質問項目の内容について、今後改良を行う必要性も考えられる。特に1年生における不安感の軽減は、養成校だけでなく現場においても重要視される問題である。そのため、学生用マッチングシートの中で、事前に「不安に感じていること」や「サポートしてほしいこと」を明確にしておくことは、実際の現場における指導場面でも有効であるかもしれない。

さらに、マッチングシートの実施方法についても更なる検討が必要である。今回、マッチングシートを初めて使用するにあたり、事前にインターンシップ担当教員から各施設へ口頭での説明を行い、協力を要請した。その後、指導担当者用マッチングシートの回収はインターンシップ担当教員を含む学科教員が行い、インターンシップ担当教員から学生へ渡すという手順であったが、施設によっては教員が回収する段階で未記入であったため郵送を依頼し、10回(8回)のインターンシップが終了する直前に回収となった場合もあった。そのため、これらの施設でインターンシップを行う学生へのフィードバックが遅くなってしまい、意欲向上に繋がりにくくなった可能性がある。今後は、マッチングシートの記入や回収の効率化のために、デジタルツールを活用するなどの工夫が必要だろう。

本研究では、マッチングシートの効果を検討する際に、学生のみを対象としていた。今後は各施設の指導担当者に対しても調査を行い、その効果を検討する必要がある。今回のマッチングシート回収時に、一部の施設指導担当者から「時間的な負担はそれほど感じないが、(マッチングシートを活用する)意図が分かりづらかった」との指摘があった。今後は、マッチングシートの活用意図について、より分かりやすく明確に周知するよう工夫しなければならない。一方で、「学生の頑張りたい方向が見えやすく、こちら(指導担当者)が何を指導していけば良いかが分かりやすかった。いつもは学生が求めている指導や何が分からないかが分からなかったため、助かったし役立った」という意見もあった。学生の不安感だけでなく、インターンシップ先の指導担当者の負担や悩みを軽減させるためにも、マッチングシートは有用である可能性がある。また、第三著者が園長を務める保育園での実習において今回作成したマッチングシートを試用した際には、学生用のマッチングシートが学生への指導・学生とのコミュニケーションのみならず、指導担当者の意識改善にも繋がったように感じられた。例えば、学生がマッチングシートに「特に絵本の読み聞かせについて学びたい」と記述していた場合、指導担当者は学生に読み聞かせの機会を与えたり、その後助言を行ったりするだけではなく、自身が読み聞かせを行う際にも「学生の手本となるように」と意識し、指導担当者自身の保育への姿勢にも良い影響を与えられていた。

このように、今回作成したマッチングシートは学生だけでなく、指導担当者や若手保育者の人材育成のためにも役立てられるかもしれない。これについても、今後検討する必要があるだろう。

最後に、本研究では、マッチングシートの導入だけでは解決できない問題もあることが明らかとなった。今回作成したマッチングシートでは、「質問のタイミングが分からない」という学生の悩みを解決するために、質問可能なタイミングを指導担当者から回答してもらう質問項目を設けた。しかし、本研究の自由記述の結果からは、特に1年生において、指導のタイミングを提示されるだけでは中々実際の質問の機会には結び付かず、指導担当者を含む保育者からの声掛けが求められていることが分かった。もちろん、養成校側の事前指導として、現場の状況を想定できるようなシミュレーションを学生にさせたりすることは必要である。しかし、「質問がしづらい環境」や「指導の不十分さ」がインターンシップの満足度に影響することからも、学生が質問しやすい環境づくりを検討していくことは今後の課題といえよう。その際には、保育者側の負担が過剰になりすぎないように留意する必要がある。また、指導担当者からのポジティブな言葉掛けや、すべきことを明確化するための助言は、学生の意欲向上や満足度に繋がる。週に1回、1年間を通して同じ施設の同じクラスを担当することで学生と指導担当者間での関係性が深まり、そこでの声掛けによって学生のモチベーションがさらに上がることは、インターンシップの理想的な形である。これはまさに、保育士養成課程等検討会（2010）が指摘した、「インターンシップが就職のモチベーションを高める」ことを示しているのではないだろうか。保育職を目指す学生にとって、理想の保育者像が見つかることは、保育職への意欲を高める大きなきっかけとなる。今後、インターンシップのみならず、教育実習・保育実習等でも、マッチングシートの効果を含むこれらの結果を生かすことは、質の高い保育者を育成することに繋がるだろう。

注1) 学生やインターンシップ先に対しては、マッチングシートのことを「アンケート用紙」という名称で説明していた。

## 引用・参考文献

平井敏孝・伊藤孝子・藤山あやか・保育士・教育養成段階におけるキャリア形成支援—インターンシップの効果的な実施方法を探る—。滋賀文教短期大学紀要。2020, vol. 22, p. 17-28.

保育士養成課程等検討会。「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」。厚生労働省。2010-03-24.

<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/s0324-6.html>, (cited 2024-11-27).

ジョブジョイントおおさか。「ジョブマッチングシート」。働く力 WEB. 2017-10-24.

<https://hataraku-chikara.jp/information/hoshi05/>, (cited 2024-11-27).

大重康雄。短大生の就職活動意識と意思決定支援（人文・社会科学編）。鹿児島女子短期大学紀要。2012, vol. 47, p. 63-76.

大嶋健吾・芝田圭一郎・玉川朝子・中津功一郎．年間を通したインターンシップの教育的効果—現状と課題—．大阪城南女子短期大学研究紀要．2023, vol. 57, p. 1-26.

留学生支援ネットワーク．“社会人基礎力チェックリスト（A3）”．留学生支援ネットワーク．2010.

<https://issn.or.jp/support.html>, (cited 2024-11-27).

佐伯知子．長期的インターンシップ実習における継続性 / 非継続性の要因に関する研究—保育・教育系学生の縦断的アンケート調査を手がかりに—．総合保育大学紀要．2015, vol. 9, p. 43-56.

下里里枝, 谷口一也．就学前保育・教育施設へのインターンシップの効果と課題（2）大学1年生のインターンシップの場合．関西国際大学教育総合研究叢書．2018, vol. 11, p. 147-157.

白石雅紀．実習が保育者としての就職に影響を与える要因に関する考察— A 短大の事例より—．東京未来大学研究紀要．2017, vol. 11, p. 181-189.

山本弥栄子．保育者養成課程におけるインターンシップの意識変容に関する研究—保育所実習における意識変化の段階仮説—．桃山学院教育大学研究紀要．2020, vol. 2, p. 217-232.

全国保育士養成協議会．“令和元年度子ども・子育て支援推進調査研究事業（厚生労働省）「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究”．全国保育士養成協議会．2020-03.

[https://www.hoyokyo.or.jp/nursing\\_hyk/study/](https://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/study/), (cited 2024-11-27).

（たまがわ ともこ：講師）

（かたやま あや：講師）

（おおしま けんご：特任教授）

巻末資料1 インターン先の指導担当者に対する満足度の理由（すべて原文ママ）

満足度	1年生	2年生
6	<p>担任の先生だけではなく、色々なクラスの先生が話しかけてくれて質問しやすい環境だから。／毎回話を聞いてくださって、質問したことたくさんさんの意見や具体的に指導をしてくださったから。／毎回実習時間が終わった後、子どもたちを見送る前に少し時間をとって今日はどんな感じだったか何に困ってどう行動したのかを聞いてアドバイスももらえたから／週に一回実際に保育現場に行って保育者という立場で子どもに触れる機会があるということは自分の学びにすぐなるなと思います。／優しく丁寧に教えてくれるから／子どもたちが帰ったあと先生が積極的に話してくれてその流れに乗って質問をすることが出来たから／流れ知れたし、子ども達の接し方や技術いっぱいしたからわ！！／これはこうして欲しいと、その時その時に言うてくれたのですぐに直せるし気をつけよう意識出来ました！子どももたくさん関わって担当の先生ともコミュニケーション取ることができました。1日の反省会でも自分が困っていたこと何でも相談に乗ってくれました！／とても丁寧な対応をしてもらい、分からないことは分かりやすく分かるまで教えて貰って沢山のことを学ぶことが出来たから／優しく丁寧に教えてくださる先生だったから。おやつ時間ぐらいで帰るのは少し寂しいけど回数的にはちょうどいいと思うから。子どもたちにも覚えてもらうことができるから。／指導のタイミングは、事柄があった時に毎回指導して下さるので、学びやすく覚えやすかったです。／自分自身に欠けている部分がよく分かったからです。／分からないことがあれば聞き、その質問に対してしっかり答えてくださった。／とても優しく、初めは緊張して自分から積極的に行動することは少なかつたけど徐々に慣れてきて、初めはこれ願いますと先生から頼んでくださりましたが、回数を重ねるごとに自分自身やることもわかってきて、勝手に行動するのではなく一度聞いて行動することができました。毎週インターンの最後帰る時に、今日の困ったこと、聞きたいことを尋ねてください、そこでわからないことなどを教えてくださりとても聞きやすかったです。／毎日1日の終わりに反省会を設けてくださっていたのでその日に聞きたいことを解決できたからです。／なにか教えてくれるタイミングで毎回わからんこと、質問がないか確認してくれていたから、自分から質問することは少なかつた。ひとつひとつ丁寧に教えてくれるのでとても覚えやすかつた。</p>	<p>正直、質問したり、話しかけるタイミングが難しく、聞きたいその時に聞きづらかつたりするけど、先生から朝、今日は〇〇します。今これ目標にしています。など、伝えてくれる。また、質問した際も、嫌な顔ひとつせず、教えてくれたり、他の先生が周りにいる時は、他の先生に、〇〇先生はどう思う？など、話を広げてくれる。／振り返りの時間を通して色々な園や施設あることを知れるから。／活動の合間に「なんか質問かない？いつも聞いてね」と声をかけてくれるから／インターン先をととても真剣に考えてくださったこと。／今何を挑戦しているのか、どの玩具、絵本が好きなのか子ども一人一人についてを覚えてくれました。／私が行動して、正しければ褒めてくださり、間違っていれば次の行動について指示をくださるから。／活動の中でどのような声掛けが必要なのかを分かりやすく教えてくださったからです。</p>
5	<p>分からないことを聞くとしつかり答えてくれ、分からないことがあればすぐ聞いてねと声掛けをしてくれたから／園での子ども達との関わる時間も長くとても楽しかつたし先生方も質問をするとしつかり最後まで考えてくれてとても充実したインターンだった。／1歳児のクラスに入っているから午睡の時間が2時間程あるので質問する時間は十分あるから。／分からないことを丁寧に教えてくれる／午睡の時に時間があれば質問したりできるけど、たまに時間がなくて、何も聞かない時があるから。／先生の動きを見たり、座る向きなどの保育中に指導してもらってその場で理解する事ができたと思うからです。／指導内容は素晴らしく、子どもたちの学びや成長に適していると感じました。ただお昼寝の時間に帰るのが少し寂しいです。／何から何まで細かく教えてくれる／いつも園児が降園した後に、質問や気になっている事があるかを気にかけて下さり色々な仕事を任せて下さるから。／忙しい時でも話を聞いてくださったから。／午睡の時に、制作を任ざれることが多く、あまり質問出来ない時もあつたけど、自分から聞いたら答えてくれたり凄く色々話していただける先生ばかりで、自分にとってとても過ぎしやすかつたです。また、午睡の時以外でも聞いたら答えてくださるので、問題を解決できないままということがなく過ぎせたから。</p>	<p>日誌のコメントでも改善点を書いてくれて、次のインターンに活かすことが出来ました。／インターン先と一緒に考えてくれたり、日誌の書き方の指導など分かりやすかつたから／わからないことが聞きやすかつたので、子どもも子どもと関わる前に教えて頂き、実践することが出来た。／自分に合った自由保育なため学ぶことが多く、保育者全員がその都度色々教えてくださる。</p>
4	<p>着替えや掃除細かく教えてくれた／今後の実習とかではもっと積極的に自分から行ってもいいと思うというアドバイスを貰つたり優しく言ってくれた／丁寧にありがたかつた／回数時間はもっと多くてもいいなーと思った。あんまり指導されるように感じなかつた。／現場の先生方は思っているよりも忙しそつたので中々質問出来なかつたが、質問の場を設けて頂けた時に質問することは出来たが忙し中中で凄く申し訳ない気持ちがあつた。／全く分からなかつた乳児さんとのコミュニケーションのとり方を丁寧に教えていただいたから、しかし先生とのコミュニケーションはしつかり取れているかは不安</p>	<p>必要なことはすぐに教えて下さつたり、サポートしたり、迷つたときは私よりも先に声を掛けてくださつたりで、とても学びになっています。ただ、午睡が保育者の休憩時間にあつていてバタバタしているため、中々相談したり聞いたりすることが難しいこともあります。／それくらい分かるやろと言う内容の質問でも、丁寧に教えてくれたから。</p>
3	<p>分かりやすく教えてくださった。</p>	<p>基本的に指導してもらえ時間がない</p>
2	<p>園児が帰つたあと先生居ない時がほとんどあまり質問できていない／いつも分からないことがあれば教えてほしいことともう1個さきのことを沢山教えていただけるのでとても嬉しいです。／先生方が気付いた時にこうした方が良いと指導して頂いたことが3回ぐらいいしかなかく活動中や終了後の指導が無かつたから</p>	<p>指導はされたことない。保育者と話す機会が無い</p>

## 巻末資料2 マッチングシートによって意欲が上がった(下がった)理由(すべて原文ママ)

意欲	1年生	2年生
5: とても 上がった	<p>褒めてくれたからノコミュニケーション能力を向上して欲しいと書いていたし、かかって思ったし見抜かれてるんだなと思った。アンケートが返されてからは子どもたちと積極的に話す事ができた。ノ挨拶ってめっちゃ大事でもう一回知れたし、元気がないとこの仕事は無理やと思ったから！ノ自分のことをよく見てくれていて、こうしたらいいよと教えてくれて、こっちは期待に応えたいと思いましたノ先生が今何を求めているのか自分がどんな行動をすればいいのか考えることができました。ノ子どもたちも大好きですと書いていて嬉しくて頑張ることが出来たノ自分のいいところを教えてくださいださって応援の言葉もいただけたしするべきことを教えてくださいださったからノ自分がインターンシップで大事にしていた、元気、積極性が回答に書いてあり、褒めて頂いたことがとても嬉しかったです。ノアンケートに回答してもらったのを通して進んで取り組めるようになったからです。ノ子どもだけでなく、インターン生の自分のことをしっかり見てくれていた。ノ子どもと遊ぶのは簡単だけど、先生も楽しまない子どもはすぐにわかってしまうので一人一人の子どもの特長を掴んで関わるのが大事だと実感しました。ノ先生が私に求めていることが正確に知ることができて行動に移しやすかったからです。ノ安心できる関わり方をしてくれてと書いてくださっていて安心しました。後期も先生方に安心して貰えるような保育をしていきたいと思いますノ褒めてくれたので、もっと頑張ろうと思ったノインターン先の担当の先生がインターン生に何を求めるのかが知れたので、後期は優先順位3位までの3つの事を中心に積極的に頑張りたいと強く思ったから。ノもう少し積極的に行動しようと思った。ノ先生の考えを知ったことで、その答えが全てではなくとも、礼儀正しくすることの大切さを感じたり、リズム遊びや制作などの活動にもっと積極的に取り組もうと思ったから。ノ先生方にどのタイミングで質問したら良いか分からず不安だったので教えて頂き安心して活動する事が出来ました。また応援メッセージを書いて頂き頑張ろうと思いました。</p>	<p>客観的な課題、自分と良いところと気づくことができ、今後の自己課題にすることができた。自信が持てた。ノ今働いている保育者が学生の時にどんなことを学んだらいいのかがわかった。ノこういう部分が見られているのかなと思いが引き締まったノ自分自身が今後のインターンシップで、どの部分を学ぶべきか知ることができ、視野を広げて様々な知識や経験を自分のものにしたかった。ノ良い部分とアドバイスを書いてくださっていて、自分のすべき行動が明確になったからです。ノどこを意識したらいいかわかったから。ノ学びたいことをインターンシップで直接教えて貰うことができるから。</p>
4	<p>先生がコミュニケーション能力を求めていると知れたのでそこをもう少し頑張りたいと思った。ノ園長先生も担当の先生も担任の先生も言うてくださったので、楽しく子どもたちと過ごすことが出来ました。素直さというのがよく分からなかったけれど自分の気持ちを具体的に伝えることができるよう努力しました。ノたくさん項目がある中で実習時なことを重視して臨めばいいのかがあまり分からず取り組んでいたから園の先生がなにを思っているのかどうあつてほしいのかを知ることが出来て少し気軽に、安心して取り組むことが出来たから。ノ自分から行動しよ、分からなかったらすぐ質問しようと思うことが増えて初めの頃より園の先生とコミュニケーションが取れるようになったかなと思います。ノ質問をする時間など先生がどこを大事にしているかやどこを見ているのかがわかってとても良かった。ノアンケートに答えて下さった先生が学生時代に読み聞かせや手遊びをしてあげれば良かったと回答されていたので、他の先生がやっている手遊びやどうやって絵本の読み聞かせをしているかどうかを観察するようになった。ノすべきこと意識することが明確になったためノ必要な力をもっと伸ばして行きたいなと思ったから。ノ楽しい保育をしている先生に憧れて保育者になりたいと思ったので、アンケートにも楽しい保育を心がけてほしいと書いていて頑張りたいなと思ったからです。ノ先生が何を重要視しているのかわかったので、次の週からそれを意識しながらインターンシップに望むことができた。ノ挨拶はしっかり大きい声で恥ずかしがらずにやるようになった。コミュニケーション能力は微妙やけど元気さだけは子どもと同じぐらいで負けてないかなと思いました。ノそのアンケートを活かして、インターンに挑むことができたからノいつでも質問して良かったんだと思った。ノ実際に働いている現場の先生の意見を見ることができ、こうしてみようという具体的思い浮かぶことが出来たからです。ノ先生の思っていることなどを知ることができ不安が少し減ったからノ自分が思ってた真反対、良いこと書いてくれたノ自分の課題だった積極的に動くを実践したことで先生にもちゃんと伝わっていて嬉しく思いました。先生が最後に書いてくださった自信をもって明るく元気な姿で後期も頑張りたいですごく思いました。</p>	<p>どのようなところに注目してインターンシップに参加していいかわかったからよかった。質問するタイミングが良かった。質問するタイミングが良かった。ノ実際にインターン中に活かせることが書いてあったり、褒めてくれたりして成長できたと感じました。ノ一人ひとりの子どもとの関わり方を見て真似ももっとチーム保育の連携を学ぼうと感じた。ノ難しいことをしてほしいや、特別なことを子どもたちにしてほしいのではなく、まずは一緒に楽しく過ごせるように頑張ってくださいという内容を書いて下さっていて、肩の力が抜け、もう一度子どもと楽しく関わるという根本的なことを意識して、インターンに取り組めるようになりました。</p>
3: 変わら なかった	<p>ずっと笑顔で明るくしようと思ったノわからない</p>	<p>変わらずインターンは楽しいから。ノいつも通り頑張ろうとしか思わなかったノ先生方がどう思っているかはわかったが、モチベーションに繋がることはないノ行事の準備などはしていないから、</p>
2	<p>次行く時に活かそうと思った</p>	